

中国の公共図書館におけるソーシャルメディアの利用実態

The Situation of Social Media for Public Libraries in China

学籍番号：201721705

氏名：XU WENLAN

科学技術のめざましい発展の結果、人々の情報収集の手段も変容しつつある。伝統的な紙媒体から、インターネット上に存在する SNS やブログなどのソーシャルメディアが注目されている。ソーシャルメディアは個人の利用に止まらず、民間企業、報道機関、政府機関などの公共機関においても最新情報の発信や広報等のために活用されている。そうした中、中国の公共図書館においてソーシャルメディアを利用している事例が数多く確認される。これまで、図書館におけるソーシャルメディアの利用実態に関する既往研究では、投稿内容とその内容の分類、アカウント数、フォロワー数やフォロー数などを中心として調査したものが多く、こうしたサービスを提供する組織内部の状況を明らかにしようとしたものは極めて少ない。

本研究では、現在、中国の公共図書館で最も利用されているソーシャルメディアである Wechat と Weibo を主たる調査対象として、まず、Wechat と Weibo に公式アカウントを開設している公共図書館を調査し、中国全体の図書館のソーシャルメディア・アカウントの状況を把握した。次に、行政レベルの異なる 4 館の図書館のソーシャルメディアの担当者にインタビュー調査を実施した。そして、中国全国の市レベル以上の公共図書館（150 館）を対象とした質問紙調査を実施し、中国の公共図書館におけるソーシャルメディアの利用経緯、管理方法、運用上の規則と今後の計画などについて尋ねた。

調査の結果、公共図書館におけるソーシャルメディアの利用目的は図書館の宣伝と広報を中心としている一方で、図書館の利用者とのコミュニケーションを重視したいが、現在の投稿には利用者からのコメントやリツイートなどの反応は少なく、かならずしも、ソーシャルメディアを効果的に運用することができていないという現状が明らかになった。また、アカウント開設の経緯については、他館のソーシャルメディア・アカウントを目にしたことをきっかけとし、図書館内のソーシャルメディアに詳しい館員が提案して、アカウントを開設するという例が最も多かった。管理の側面については、ルールを成文化した図書館は少なく、多くの図書館では、投稿に関する内容は館員の個人的判断に委ね、必ずしも、組織的にチェックするような体制とはなっていないことが多かった。将来の計画については、現状維持を志向する図書館が多く、図書館のソーシャルメディア・アカウント数を増やす計画やソーシャルメディアの種類を増やすといった図書館はほとんどなかった。ソーシャルメディア・アカウントを効果的に運用し、ソーシャルメディアの利用者あるいは図書館の利用者とより良い関係を築くことによって、図書館アカウントの広報力や影響力を拡大することが大きな課題であることが分かった。

研究指導教員：池内 淳
副研究指導教員：歳森 敦